

流域下水道事業における管路の重点調査の実施状況について

1 要旨・目的

国から要請があった下水道管路の全国特別重点調査（以下、「重点調査」）について、流域下水道事業の調査対象管路（18.5 km）のうち、優先調査対象（15.4 km）の調査が完了したため、その状況を報告する。

2 現状・背景

- 国から全国の下水道事業者に対し、「下水道等に起因する大規模な道路陥没事故を踏まえた対策検討委員会」の提言を踏まえ、重点調査の要請（R7.3.18 付け）があった。
- この要請に基づき、現在、流域下水道事業の調査対象管路（18.5km）について、自走式テレビカメラによる管路内調査等を実施している。

【調査対象】

項 目	内 容	管路延長
重点調査対象	口径 2 m 以上かつ、平成 6 年度以前に設置された管路	18.5km
うち、優先調査対象	管路の腐食しやすい箇所 （落差のある箇所などで下水が攪拌され、硫化水素が発生しやすい箇所）	15.4km

（内 訳）

区 分	事業開始 年度	管路全長	重点調査 対象管路		
			重点調査 対象管路	優先調査対象	その他
太田川流域下水道	S63	28.5km	2.0km	—	2.0km
芦田川流域下水道	S59	39.4km	16.5km	15.4km	1.1km
沼田川流域下水道	H8	43.1km	—	—	—
合 計		111.0km	18.5km	15.4km	3.1km

【調査方法】

①管路内調査	自走式テレビカメラにより実施
②空洞調査	管路内調査の結果を踏まえ、必要に応じ、地表面から地中に金属棒による連続的な打撃を与え、地盤の緩みを計測し、空洞の有無を判定

3 調査の実施状況

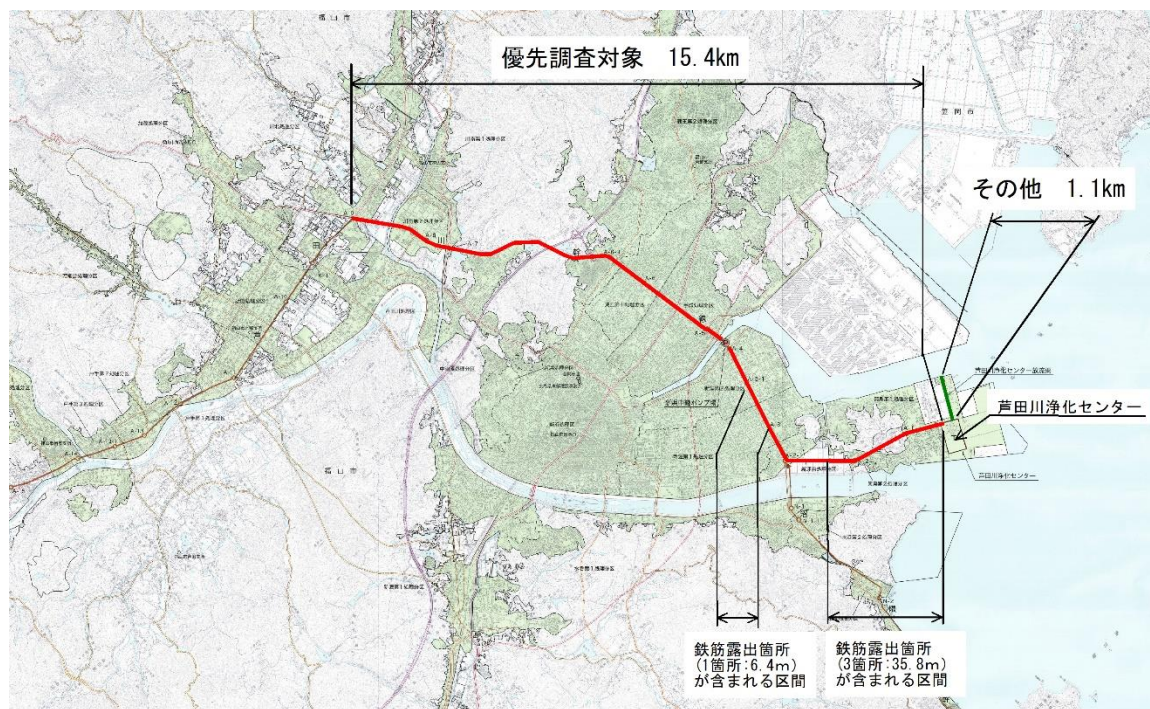
- 調査対象管路（18.5km）のうち、優先調査対象箇所（15.4km）の調査が完了した。
- その結果、管路の構造に影響を及ぼす劣化や空洞は確認されず、直ちに緊急対応が必要な箇所はなかった。
- ただし、管路内調査において、腐食により部分的に鉄筋が露出し始めている状態が 4 箇所（延べ約 42m）で確認されたことから、今後、対策を講じる必要がある。

4 今後の対応

- 調査の結果、緊急対応の必要はないが、部分的に鉄筋が露出し始めている4箇所(延べ約42m)は、補修方法の検討を進め、早期に対策を実行する。
- 優先調査対象以外の管路(3.1km)は、引き続き調査を進め、9月までに完了する。

5 参考(調査対象)

【芦田川流域】



【太田川流域】

